

平成28年度 学校マネジメントシート

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりのもてる能力を引き出し、その実現に向けてサポートを惜しまない学校。 ○生徒が高い志をもち、意欲的に取り組む、チャレンジ精神溢れる「文武両道の進学校」。 ○地域に貢献し、地域を活性化する力のある学校。 ○「SSH」、「SPP」事業の内容を継承し発展させ、本校独自事業の「津西SPP」として国際科学科を中心に取り組み、国内外で活躍できる能力と資質をもつ人材を育成する学校。
育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○高い志とキャリアプランニング能力をもち、主体的かつ意欲的に学習や部活動に取り組み、何事にもチャレンジする精神を持っている。(自学・自習・自主・自律) ○確かな勤労観・職業観及び課題発見、課題解決能力を持ち、国内外また地域に貢献ができる能力と資質を持っている。 ○高い倫理観、道徳観を備え、グローバルな視点で人間関係が形成でき人権感覚が豊かである。
(2) ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の希望を実現させるために、生徒の学力向上や部活動等を通じた人格形成にサポートを惜しまない教職員。 ○常に授業力向上等の自己研鑽に励み、課題発見、課題解決に尽力する教職員。 ○豊かな人間性を備え、目指す学校像の実現に向け自覚と責任を持って職務を遂行できる教職員。 ○生徒の成長に対し教職員同士が協力し組織的に取り組み、教職員相互で研鑽を重ね教師力の向上を目指す教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手と そこからの要 求・期待	<p>【本校生徒及び保護者・中学生及び保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路実現と充実した高校生活 <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の実現（国公立大学及び難関大学等への進路実現と将来設計の構築） ・教科活動の充実（わかりやすく力のつく授業の展開及び課外等の指導の充実） ・教科外活動の充実（部活動や学校行事の充実と人格形成） <p>【進学・就職先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力と課題発見・課題解決能力 <ul style="list-style-type: none"> ・進学・就職先での専門的な学習・仕事等に十分対応できる基礎学力 ・主体的、自主的、意欲的に学習、研究、仕事等に打ち込むことのできる高い志と表現力 ・高大連携等による確かな進路選択と将来設計 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携と地域貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生としてまた卒業後に渡り、地域貢献、地域の活性化のできる人材育成 ・進学校としての伝統の継承 ・地域におけるマナーや交通安全の遵守 	
(2) 連携する相手と 連携するうえで の要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>【中学生及びその保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供（学校状況や選抜情報） <p>【進学先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力と意欲。課題対応能力と表現力及び社会性。 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献 	<p>【中学生及びその保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力と学習活動や特別活動等に対する意欲、高い志。 <p>【進学先】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供等 <p>【地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携によるキャリア教育等

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・選抜で国際科学科と普通科の棲み分けをつくってしまうのではなく、普通科内でもポテンシャルの高い生徒同士で競い合う状況（例えば特進クラスの編成）は作れないか。 ・学科を問わず、校内でチャレンジできる校風、雰囲気をつくってはどうか。 ・難関大学の合格数が少ないのは弱み。特に前期選抜での入学者の進路状況が気になる。上位層の引き上げを期待したい。 ・この1年の改善活動等により、国際科学科と普通科の「差」がアンケート等でも少なくなったことはよいと思う。 ・先生方の学習やクラブ活動に対する手厚い指導は強み。反面、先生方の過重労働が気がかり。息を抜けるスペースや喫茶コーナーのようなリフレッシュできる場所、時間が必要ではないか。 ・学習やクラブ活動に打ち込める環境が整っていることは、強みであり魅力。 ・広報活動は冊子、カレンダー等よいと思うが、四日市方面など広域に広報してはどうか。 				
<p>(4) 現状と課題</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="245 510 336 779"> <p>教育活動</p> </td> <td data-bbox="336 510 1525 779"> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した進路指導と豊かな人間性の育成を目指し、教科指導、面談、部活動、高校生活意識・満足度調査結果等を通じて、生徒一人ひとりの学校に対する要望や、ニーズを具体的に把握し、常に学習者の視点に立った学校改善に取り組んでいる。 ・個々の職員の業務量が多いため、生徒とのコミュニケーションの機会や研修会の時間を確保することが難しい。 ・目標（国公立現役150名以上、難関20名以上）の達成に向けた組織的な取り組みに弱みがある。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="245 779 336 1072"> <p>学校運営等</p> </td> <td data-bbox="336 779 1525 1072"> <ul style="list-style-type: none"> ・「津西高校指導ガイドライン」の策定等により、「学力向上学習委員会」を発足し、学年主体の進路指導から学校全体として組織的な進路指導への変換を図ろうとしており、改革に向けた風土が整いつつある。 ・学校の組織全体の能力を高めるため、学年・教科・分掌の枠を超えた連携、改善点を次年度へ円滑に引き継げる体制に弱みがある。 ・各種アンケート結果について、全体での共有はできているが、重点を絞り込み、優先順位をつけるなど改善活動を円滑におこなうためのしくみが必要である。 </td> </tr> </table>	<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した進路指導と豊かな人間性の育成を目指し、教科指導、面談、部活動、高校生活意識・満足度調査結果等を通じて、生徒一人ひとりの学校に対する要望や、ニーズを具体的に把握し、常に学習者の視点に立った学校改善に取り組んでいる。 ・個々の職員の業務量が多いため、生徒とのコミュニケーションの機会や研修会の時間を確保することが難しい。 ・目標（国公立現役150名以上、難関20名以上）の達成に向けた組織的な取り組みに弱みがある。 	<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「津西高校指導ガイドライン」の策定等により、「学力向上学習委員会」を発足し、学年主体の進路指導から学校全体として組織的な進路指導への変換を図ろうとしており、改革に向けた風土が整いつつある。 ・学校の組織全体の能力を高めるため、学年・教科・分掌の枠を超えた連携、改善点を次年度へ円滑に引き継げる体制に弱みがある。 ・各種アンケート結果について、全体での共有はできているが、重点を絞り込み、優先順位をつけるなど改善活動を円滑におこなうためのしくみが必要である。
<p>教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した進路指導と豊かな人間性の育成を目指し、教科指導、面談、部活動、高校生活意識・満足度調査結果等を通じて、生徒一人ひとりの学校に対する要望や、ニーズを具体的に把握し、常に学習者の視点に立った学校改善に取り組んでいる。 ・個々の職員の業務量が多いため、生徒とのコミュニケーションの機会や研修会の時間を確保することが難しい。 ・目標（国公立現役150名以上、難関20名以上）の達成に向けた組織的な取り組みに弱みがある。 				
<p>学校運営等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「津西高校指導ガイドライン」の策定等により、「学力向上学習委員会」を発足し、学年主体の進路指導から学校全体として組織的な進路指導への変換を図ろうとしており、改革に向けた風土が整いつつある。 ・学校の組織全体の能力を高めるため、学年・教科・分掌の枠を超えた連携、改善点を次年度へ円滑に引き継げる体制に弱みがある。 ・各種アンケート結果について、全体での共有はできているが、重点を絞り込み、優先順位をつけるなど改善活動を円滑におこなうためのしくみが必要である。 				

3 中長期的な重点目標

<p>教育活動</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力の向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教科指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業を実践して学習意欲を高め、基礎基本の徹底と応用力の育成を図る。 【わかる授業からできる授業への転換を図る】 ・公開授業を進めることにより、授業力の向上と生徒の学力向上に努める。 ・各教科科目の学習内容・ねらい・評価方法を明確に提示し、学習意欲の向上と学習の効率化を図る。 ・校外の研修にも積極的に参加し、授業力、指導力のスキルアップに取り組む。 (2) 進路指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談をより充実させ、生徒の能力や適性・希望に基づいた進路指導を行い、進路希望の実現を図る。 ・国公立大学、難関大学の合格者数の増大を図る。 2 社会人として活躍する人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒指導を展開し、豊かな人間性の育成に努める。 ・危機管理意識を高めるとともに、交通安全教育を推進する。
<p>学校運営等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上を促し、生徒の進路希望を実現する学校体制 <ul style="list-style-type: none"> ・課外の工夫改善を図り、授業・課外・補習の一層の組織化と3年間を見通した進学指導体制をつくる。 ・「津西高校指導ガイドライン」に沿って、発展的に取り組んでいける学校組織を構築する。 ・「学習手帳」、「授業アンケート」等を活用しながら、学力上位層の一層の引き上げと、学力中位層の底上げを行うための方策を検討する。 ・「わかる授業、できる授業」を展開していくための授業力向上に資する研修等や、アクティブラーニングの考え方をふまえつつ、「思考力」、「判断力」、「表現力」を育成する授業への移行を推進する。 ・「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」に対応できる資質、能力の育成のための研修及び研究開発を推進する。 ・安全で清潔な校内学習環境の整備に努める。 2 社会人としての人材育成を推進する学校体制（キャリア教育の充実） <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導、人権教育推進等を一層深めることのできる体制を整備する。 ・人間関係形成能力、社会形成能力を育成できる体制を整備する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標
学力向上と授業力向上及び進路指導・キャリア教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 学力層に応じた学力の引き上げ。 【指標】・難関大学 20 名以上、国公立大 150 名以上の合格。 ・東大・京大の合格者を出す。 ・指標達成に向けた各学年における学力層の想定と学力向上のための計画と実施。 2 授業力向上のための研修 【指標】・校外研修の参加及び校内研修の参加2回以上 3 授業力向上のための「授業アンケート」の実施 【指標】・年間 2 回以上の実施。 4 学力向上学習委員会等を通じた教科内、教科間連携及び学年間の連携 【指標】・委員会(年間3回以上の実施。) ・教科会の定例化 ・学年主任会(年間6回以上の実施。) 5 進路指導・キャリア教育の充実 【指標】・「総合的な学習の時間」への組み込みと活用。 ・「ようこそ先輩」、「一日総合大学」等の取組を通し、進路希望や将来設計を確立させる。 (進路アンケートで学部等将来未定者30%減) ・学年別の保護者進路講話の実施 (参加率200%増)
生徒指導及び人権・道徳教育	<ol style="list-style-type: none"> 1 自然災害に対し、適切な行動ができる生徒を育てる。 【指標】・避難訓練及び防災教育の実施。 2 校門指導等により、遅刻の防止と挨拶指導を徹底する。 【指標】・遅刻数前年度比50%減。 3 生徒が安心安全で清潔な環境のもと学校生活を送れるよう、環境整備を含め努力する。 【指標】・「いじめ」「体罰」の件数0 4 交通安全の推進。 【指標】・あらゆる機会を捉え、自転車の乗車マナーを徹底。 ・自転車点検を年間1回、自転車のステッカー点検を年間2回実施。 5 人権感覚溢れる人間性の育成及び道徳観の涵養を図る。 【指標】・「人権教育」の組み込み。 ・教員対象の人権教育研修の実施。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標
学校運営等	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒、保護者、学校関係者評価委員、教職員などへのアンケートを実施、分析し、改善を図りながら、学校の目標を達成できる学校となるよう努める。 【指標】・各「アンケート」の実施と分析。次年度への改善提案。 2 中学校(生)や学習塾への積極的広報を行い、学校説明会・見学会を一層充実する。 【指標】・各参加者数1000名以上。 3 魅力あるホームページ作りに努め、迅速な情報の更新、内容の充実を図る。 【指標】・1日のアクセス数200件以上。 ・保護者アンケートによる満足度30%増 4 会議や学校行事等の精選を行い、教員が生徒と向き合う時間の確保に努め、教職員のやりがいを高める。また総勤務時間の縮減を図るため「定時退校ウィーク」を設ける。 【指標】・「定時退校ウィーク」の組み込み及び活用率30%増。